

Ⅲ-3. 全国年間罹患数・週別罹患数の推計：小児科定点対象疾患

小児科定点対象の 12 疾患について、全国の年間罹患数の、性別、年齢階級別の推計値、全国の週別推計値とその累積数、および、全国年間罹患数推計値の吟味結果を示す。

以下、各疾患ごとに結果の概要を示す。なお、全国年間罹患数推計値（性別、年齢階級別を含む）を表Ⅲ-3-1～12、週別の推計値とその累積数を図Ⅲ-3-1～12、推計値の吟味結果を表Ⅲ-3-13に示した。

(1) 咽頭結膜熱

表Ⅲ-3-1に、咽頭結膜熱における全国年間罹患数の推計値と 95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は 2000 年が 18.5 万人（95%信頼区間：15.3～21.6 万人）、2001 年が 21.5 万人（同：19.2～23.8 万人）、2002 年が 13.6 万人（同：11.5～15.7 万人）であった。2003 年は 34.3 万人（同：30.8～37.9 万人）で、2002 年の 2.5 倍であり、この 4 年間で最も多かった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次においても、男が女よりやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次においても 0～4 歳、次いで 5～9 歳が多く、両年齢区分をあわせると推計値全体の約 9 割を占めた。

図Ⅲ-3-1に、咽頭結膜熱の 2000 年～2003 年の週別全国罹患数と各年第 1 週からの全国累積罹患数の推計値を示す。週別罹患数の推移や累積罹患数の傾きなどを見ると、毎年第 30 週前後に流行期のピークが見られるが、2003 年は流行期が長く、いったん減少した後から 52 週までにこれまでの 3 年間では見られなかった大きな増加が見られている。

表Ⅲ-3-13に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計（真値）に対して、定点からの推計値は 1.09～1.18 倍であり、2003 年の比が最も高かった。

(2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

表Ⅲ-3-2に、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎における全国年間罹患数の推計値と 95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は 2000 年が 139 万人（95%信頼区間：128～150 万人）、2001 年が 129 万人（同：119～139 万人）、2002 年が 136 万人（同：125～146 万人）であった。2003 年は 143 万人（同：134～153 万人）で、2000 年～2002 年と比べると数は最も多かったが、規模としてはほぼ同程度であった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりもやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次においても 5～9 歳が最も多く、次いで 0～4 歳が多かった。この両年齢区分が全年齢のかなりの割合を占めた。

図Ⅲ-3-2に、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の 2000 年～2003 年の週別全国罹患数と各年第 1 週からの全国累積罹患数の推計値を示す。累積罹患数では各年とも第 30 週あたりで傾きがなだらかになるなど、グラフの形状に大きな違いはなく、流行の状況は各年とも同程度であることが示されている。

表Ⅲ-3-13に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計（真値）に対して、定点からの推計値は 1.17～1.20 倍であった。

(3) 感染性胃腸炎

表Ⅲ-3-3に、感染性胃腸炎における全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が865万人(95%信頼区間：823～908万人)、2001年が868万人(同：823～913万人)、2002年が874万人(同：827～920万人)であった。2003年は865万人(同：824～907万人)で、2000年～2002年と比較してほぼ同程度であった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても0～4歳が最も大きく、次いで5～9歳が大きかったが、15歳以上もかなり大きかった。

図Ⅲ-3-4に、感染性胃腸炎の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。各年とも週別罹患数では第50週前後に山があり、累積罹患数では第45週あたりから傾きが急になるなど、グラフの形状に大きな違いはなく、流行の状況は各年とも同程度であることが示されている。

表Ⅲ-3-13に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計(真値)に対して、定点からの推計値は1.08～1.09倍であった。

(4) 水痘

表Ⅲ-3-4に、水痘における全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が237万人(95%信頼区間：228～246万人)、2001年が233万人(同：224～243万人)、2002年が228万人(同：219～238万人)であった。2003年は210万人(同：201～208万人)で、規模に大きな違いはないが、この4年間では最も少なかった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても0～4歳が最も大きく、次いで5～9歳が大きく、両年齢区分が全年齢のほとんどを占めた。

図Ⅲ-3-4に、水痘の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。各年とも第45週あたりから翌年第30週あたりまで流行が見られているが、2003年は2000年～2002年と比較して第20週から第25週前後に見られる流行のピークの大きさが小さかった。このため、2003年の累積罹患数のグラフも他の年に比べると幾分傾きが緩やかであった。

表Ⅲ-3-13に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計(真値)に対して、定点からの推計値は1.13～1.14倍であった。

(5) 手足口病

表Ⅲ-3-5に、手足口病における全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が185万人(95%信頼区間：176～193万人)、2001年が107万人(同：101～113万人)、2002年が81万人(同：77～85万人)であった。2003年は149万人(同：141～157万人)であり、この4年間では2000年に次いで多かった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても0～4歳が最も大きく、次いで5～9歳が大きく、両年齢区分が全年齢のほとんどを占めた。

図Ⅲ-3-5に、手足口病の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。各年とも第20週あたりから第35週前後まで流行が見られ、累積罹患数にも急激な増加が見られている。累積罹患数の規模は各年で異なっているが、グラフの形状にあまり大きな違いはみられなかった。

表Ⅲ－３－１３に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計（真値）に対して、定点からの推計値は1.10～1.17倍と多かった。

(6)伝染性紅斑

表Ⅲ－３－６に、伝染性紅斑における全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が30.9万人（95%信頼区間：28.6～33.1万人）、2001年が59.4万人（同：56.3～62.5万人）、2002年が51.4万人（同：48.2～54.6万人）であった。2003年は33.0万人（同：30.2～35.9万人）で、この4年間では2000年に次いで少なかった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや小さかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても5～9歳が最も大きく、次いで0～4歳が大きく、両年齢区分で全年齢のほとんどを占めた。

図Ⅲ－３－６に、伝染性紅斑の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。週別罹患数は各年とも第25週あたりから第30週あたりに山が見られ、その後急激に減少しているが、累積罹患数には各年で大きな違いが見られた。2003年は2000年と同じような形のグラフであった。

表Ⅲ－３－１３に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計（真値）に対して、定点からの推計値は1.08～1.15倍であった。

(7)突発性発疹

表Ⅲ－３－７に、突発性発疹における全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が108万人（95%信頼区間：103～114万人）、2001年が106万人（同：101～111万人）、2002年が100万人（同：95～104万人）であった。2003年は97万人（同：92～102万人）で、規模は年次間であまり変わらないものの、2003年はこの4年間で最も少なかった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても0～4歳が全年齢のほとんどを占めた。

図Ⅲ－３－７に、突発性発疹の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。各年とも週別罹患数は年間を通してほぼ一定数であり、このことより累積罹患数のグラフもほぼ直線となっている。

表Ⅲ－３－１３に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計（真値）に対して、定点からの推計値はいずれの年次も1.12倍であった。

(8)百日咳

表Ⅲ－３－８に、百日咳における全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が2.8万人（95%信頼区間：2.6～3.1万人）、2001年が1.5万人（同：1.3～1.7万人）、2002年が1.2万人（同：1.0～1.4万人）であった。2003年は1.4万人（同：0.9～1.9万人）で、2001年・2002年と同程度であった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや大きいか同程度であった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても0～4歳が最も大きく、次いで5～9歳であり、両年齢区分が全年齢のかなりを占めた。

図Ⅲ－３－８に、百日咳の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。2000年は累積罹患数も大きく、週別罹患数に年の中央を中心としたやや山形の傾向が見られているが、2001年、2002年では、週別罹患数にそれほどはっきりとした傾向は見られな

かった。2003年は2000年ほどではないものの、やや山形の傾向が見られている。

表Ⅲ-3-13に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計（真値）に対して、定点からの推計値は1.17～1.33倍であった。

(9)風疹

表Ⅲ-3-9に、風疹における全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が3.5万人（95%信頼区間：3.0～4.1万人）、2001年が2.9万人（同：2.6～3.3万人）、2002年が3.3万人（同：2.3～4.3万人）であった。2003年は2.8万人（同：2.4～3.2万人）で、この4年間では規模にあまり違いはないものの、最も少なかった。性別の全国年間罹患数の推計値は、2000年・2001年ではともに男が女よりやや大きかったが、2002年では女が男よりやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても0～4歳が最も大きいが、それ以降の年齢もかなり大きかった。

図Ⅲ-3-9に、風疹の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。各年とも週別罹患数は第1週～第30週に多くなっていた。累積罹患数のグラフの傾きも第30週あたりまでが急で、その後はなだらかに上昇しているなど、各年とも同様の形状をしていた。

表Ⅲ-3-13に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計（真値）に対して、定点からの推計値は1.00～1.14倍であった。

(10)ヘルパンギーナ

表Ⅲ-3-10に、ヘルパンギーナにおける全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が132万人（95%信頼区間：124～140万人）、2001年が127万人（同：120～135万人）、2002年が100万人（同：94～106万人）であった。2003年は128万人（同：121～135万人）で、2000年・2001年と同程度であった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても0～4歳が最も大きく、次いで5～9歳が大きく、両年齢区分が全年齢のほとんどを占めた。

図Ⅲ-3-10に、ヘルパンギーナの2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。各年とも週別罹患数は第25週～第35週前後までに山が見られ、対応して累積罹患数のグラフもこの期間に急激に立ち上がる形状であった。この流行期の週別罹患数の違いが、年間の累積罹患数の違いとなっていることが読みとれる。

表Ⅲ-3-13に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計（真値）に対して、定点からの推計値は1.11～1.13倍であった。

(11)麻疹

表Ⅲ-3-11に、麻疹における全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が19.7万人（95%信頼区間：18.1～21.3万人）、2001年が28.6万人（同：26.3～30.8万人）、2002年が10.5万人（同：9.6～11.4万人）であった。2003年は7.8万人（同：7.0～8.6万人）で、この4年間で最も少なかった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても0～4歳が最も大きかったが、それ以降の年齢もかなり大きかった。

図Ⅲ-3-11に、麻疹の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。各年とも週別罹患数は第20週前後が山となっているが、その程度には大きな違いがあり、各年の累積罹患数の差も大きなものとなっている。2003年の累積罹患数のグラフは、2002年と似た形状となっている。

表Ⅲ-3-13に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計（真値）に対して、定点からの推計値は1.18～1.28倍であった。

(12) 流行性耳下腺炎

表Ⅲ-3-12に、流行性耳下腺炎における全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が117万人（95%信頼区間：111～124万人）、2001年が226万人（同：215～236万人）、2002年が155万人（同：147～163万人）であった。2003年は71万人（同：67～75万人）で、2002年の半分以下であり、この4年間で最も少なかった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても0～4歳と5～9歳が大きく、両年齢区分が全年齢のほとんどを占めた。

図Ⅲ-3-12に、流行性耳下腺炎の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。週別罹患数や累積罹患数のグラフの規模や形状は各年毎に異なった形状であり、2003年は他の年と比較すると週別罹患数が年間を通じて低い水準で一定に近く、累積罹患数のグラフも直線に近く、傾きも小さかった。

表Ⅲ-3-13に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計（真値）に対して、定点からの推計値は1.12～1.13倍であった。

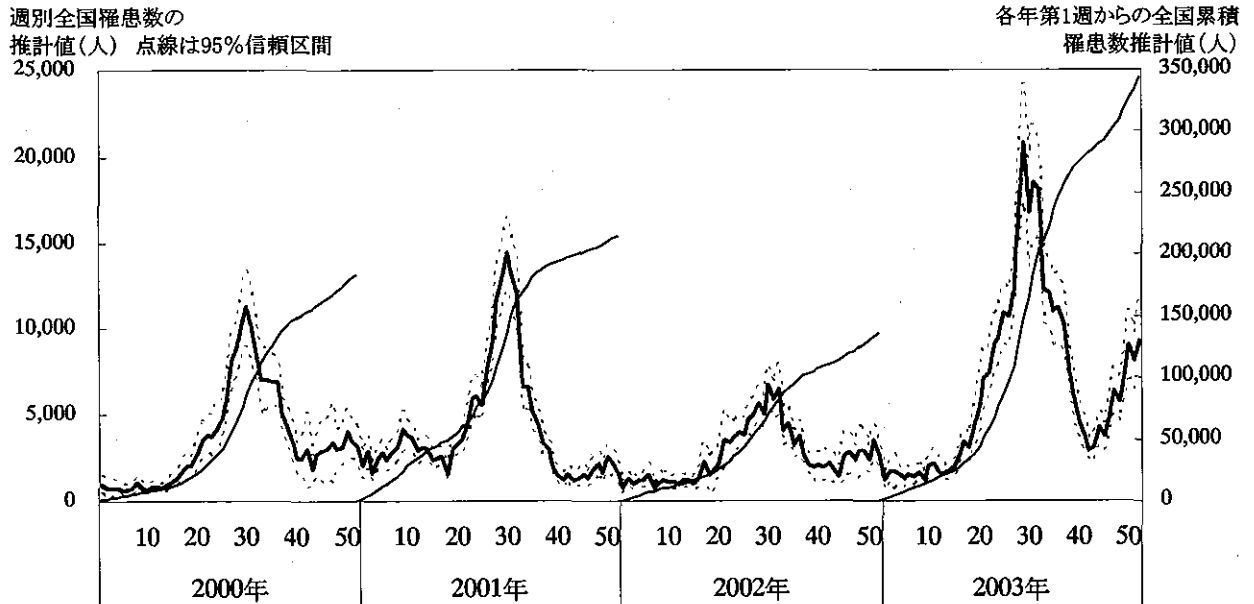
以上、小児科定点対象の12疾患について、2000年～2003年の全国罹患数推計値と吟味結果を示した。2003年の全国年間罹患数の推計値は、2000年～2002年と同程度の規模の疾患も多かったが、咽頭結膜炎、手足口病では2000年～2002年と比較して多く、伝染性紅斑、麻疹、流行性耳下腺炎では2000年～2002年と比較して少ないなど、疾患によって様々な傾向を示した。疾患別の、性と年齢による違いの傾向はいずれの年次においても比較的類似していた。吟味結果からは、いずれの年次においても推計値が過大となっている可能性が示唆され、その程度は1.00～1.33倍と試算された。

表Ⅲ-3-1 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（咽頭結膜熱）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	18.5	15.3 - 21.6	21.5	19.2 - 23.8	13.6	11.5 - 15.7	34.3	30.8 - 37.9
男	9.7	8.3 - 11.2	11.5	10.3 - 12.7	7.4	6.2 - 8.6	18.7	16.8 - 20.6
女	8.7	7.0 - 10.4	10.0	8.9 - 11.1	6.2	5.2 - 7.1	15.6	13.9 - 17.3
0～4歳	10.5	9.1 - 11.8	12.6	11.2 - 13.9	8.0	6.8 - 9.2	21.4	19.1 - 23.8
5～9	5.7	4.9 - 6.6	6.8	6.1 - 7.6	4.2	3.3 - 5.1	10.5	9.3 - 11.7
10～14	0.7	0.5 - 0.9	0.7	0.6 - 0.9	0.7	0.3 - 1.0	1.1	0.9 - 1.2
15～	1.6	0.2 - 3.0	1.3	0.6 - 2.0	0.8	0.4 - 1.1	1.4	1.2 - 1.6

単位：万人

図Ⅲ-3-1 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（咽頭結膜熱）

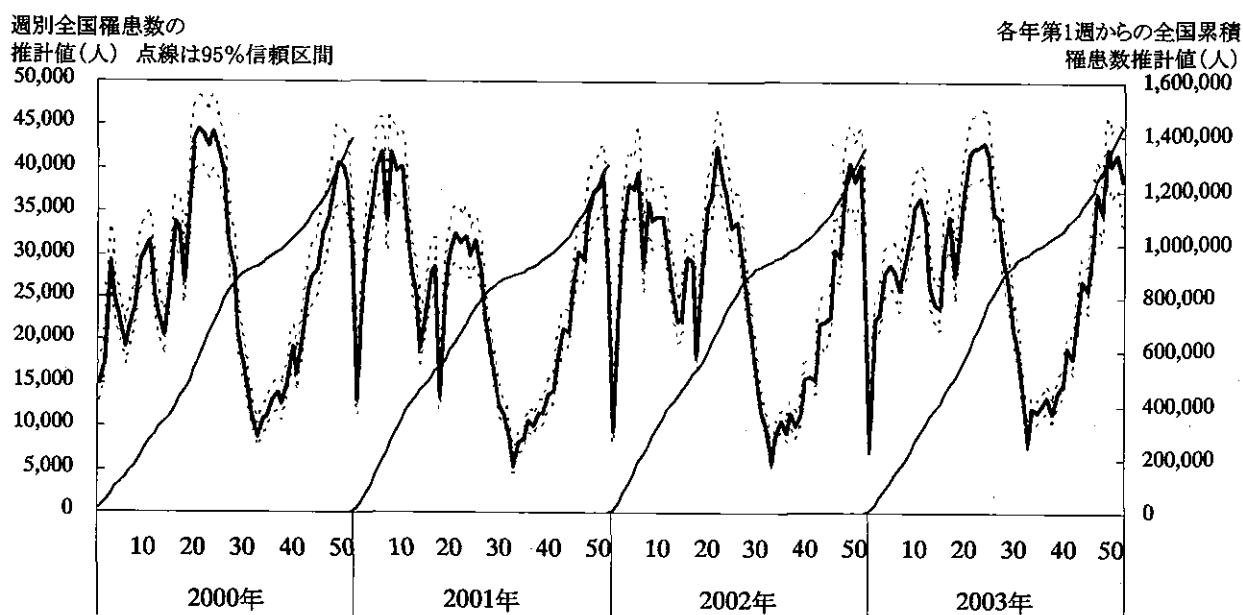


表Ⅲ-3-2 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間 (A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	139	128 - 150	129	119 - 139	136	125 - 146	143	134 - 153
男	74	69 - 80	69	64 - 74	73	68 - 79	76	71 - 82
女	64	59 - 70	60	55 - 65	62	58 - 67	67	62 - 72
0～4歳	44	41 - 48	39	36 - 42	41	38 - 44	46	43 - 49
5～9	73	67 - 79	70	65 - 75	73	67 - 78	75	70 - 80
10～14	10	9 - 11	10	9 - 11	11	10 - 12	11	10 - 12
15～	12	8 - 15	10	8 - 12	11	9 - 13	12	9 - 14

単位：万人

図Ⅲ-3-2 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値 (A群溶血性レンサ球菌咽頭炎)

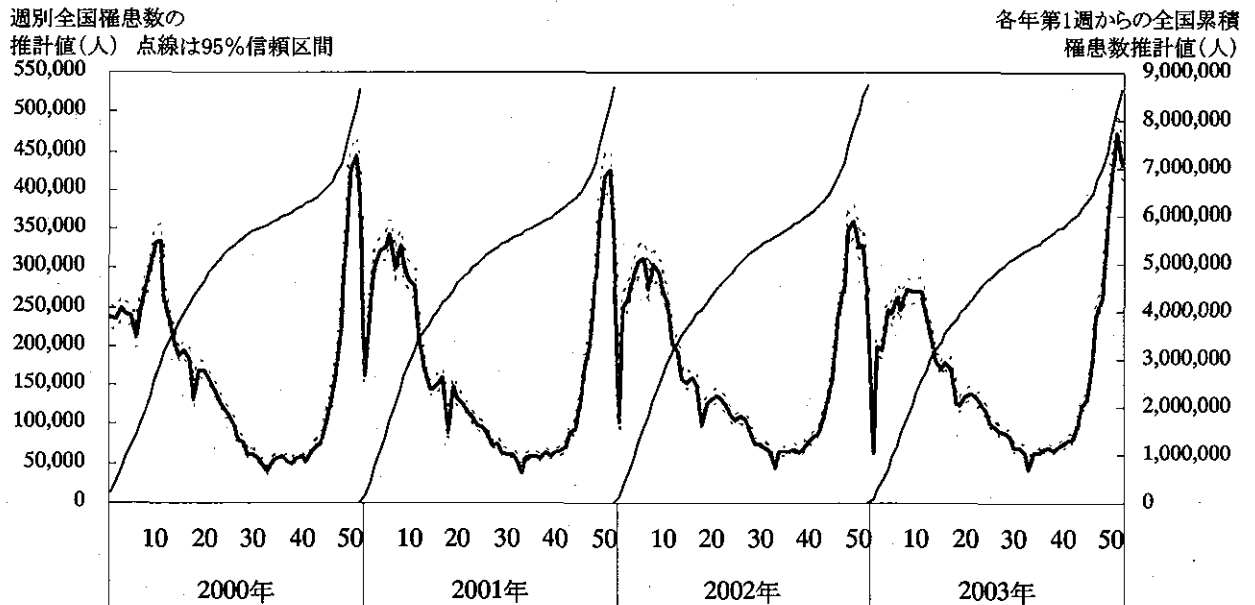


表Ⅲ-3-3 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（感染性胃腸炎）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	865	823 - 908	868	823 - 913	874	827 - 920	865	824 - 907
男	450	428 - 472	448	425 - 471	451	427 - 474	446	424 - 467
女	416	395 - 436	420	398 - 442	423	401 - 446	420	399 - 440
0～4歳	414	391 - 437	380	358 - 402	421	396 - 445	412	390 - 434
5～9	230	217 - 244	247	233 - 261	227	213 - 240	230	217 - 242
10～14	73	69 - 77	80	75 - 85	74	70 - 79	72	68 - 76
15～	148	138 - 159	161	146 - 175	152	139 - 166	152	140 - 165

単位：万人

図Ⅲ-3-3 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（感染性胃腸炎）

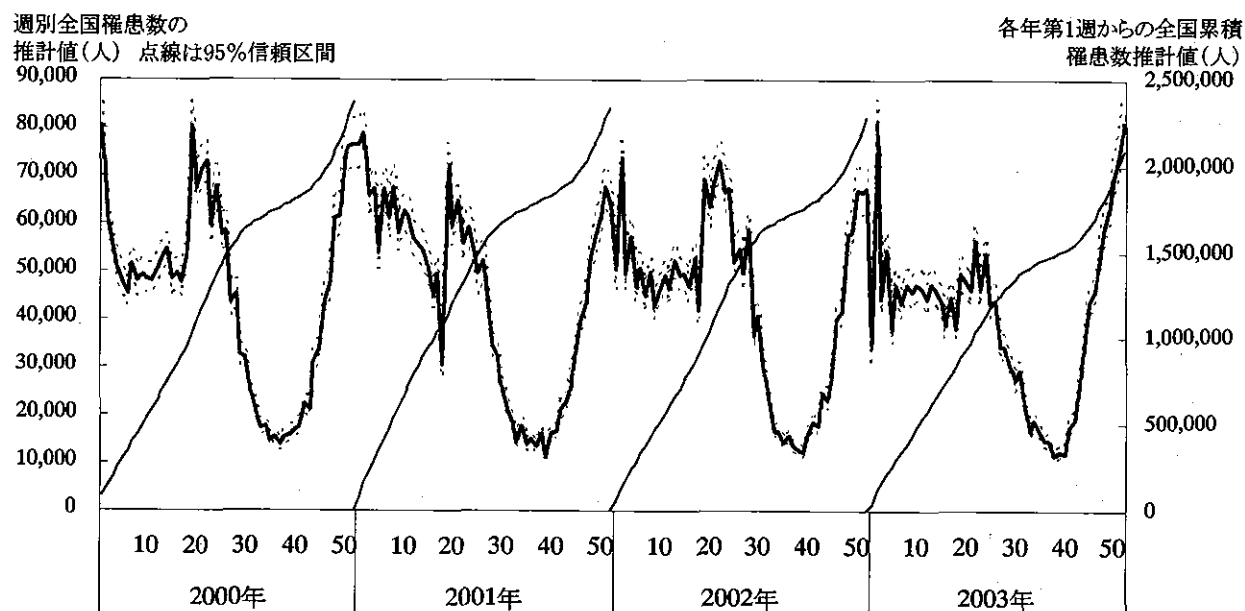


表Ⅲ-3-4 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（水痘）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	237	228 - 246	233	224 - 243	228	219 - 238	210	201 - 218
男	124	119 - 129	121	116 - 126	119	114 - 124	109	104 - 113
女	113	108 - 118	112	108 - 117	110	105 - 114	101	97 - 105
0～4歳	182	174 - 189	178	170 - 186	176	169 - 184	162	155 - 169
5～9	49	47 - 50	49	47 - 51	46	44 - 48	42	40 - 44
10～14	4	3 - 4	4	3 - 4	3	3 - 4	3	3 - 3
15～	3	3 - 3	3	3 - 3	3	2 - 3	2	2 - 3

単位：万人

図Ⅲ-3-4 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（水痘）

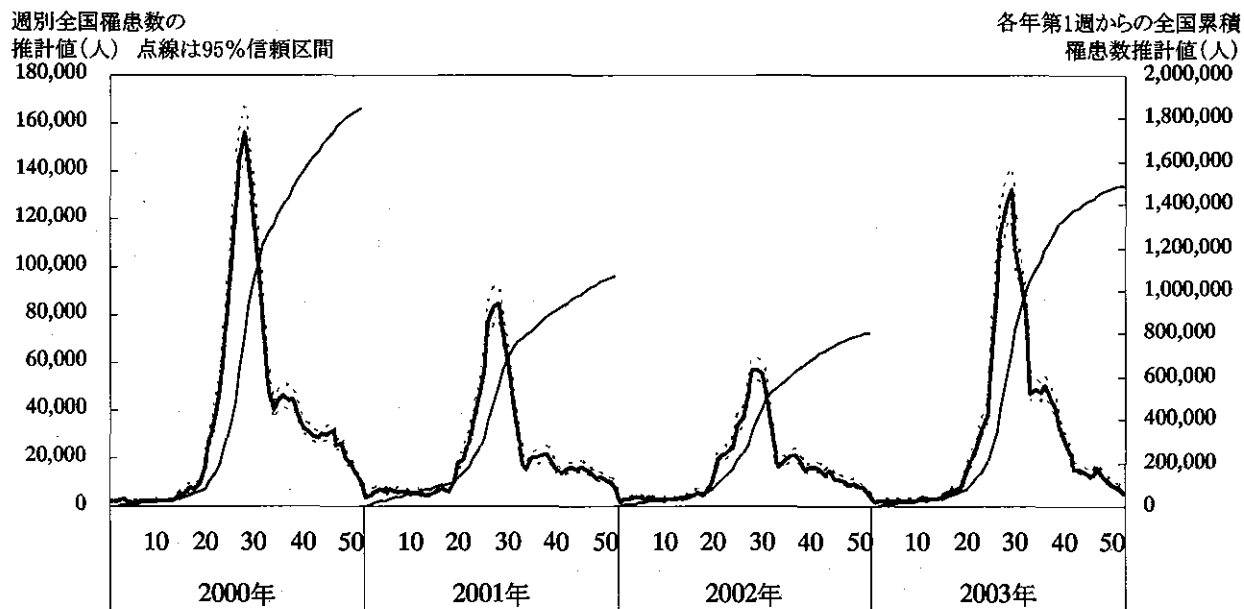


表Ⅲ-3-5 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（手足口病）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	185	176 - 193	107	101 - 113	81	77 - 85	149	141 - 157
男	100	96 - 105	58	55 - 61	44	41 - 46	81	76 - 85
女	84	80 - 88	49	46 - 52	37	35 - 39	68	65 - 72
0～4歳	139	133 - 146	84	79 - 88	64	61 - 67	114	108 - 120
5～9	39	37 - 41	20	19 - 22	15	14 - 15	30	29 - 32
10～14	3	3 - 3	1	1 - 2	1	1 - 1	2	2 - 2
15～	3	3 - 3	1	1 - 1	1	1 - 1	2	2 - 3

単位：万人

図Ⅲ-3-5 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（手足口病）

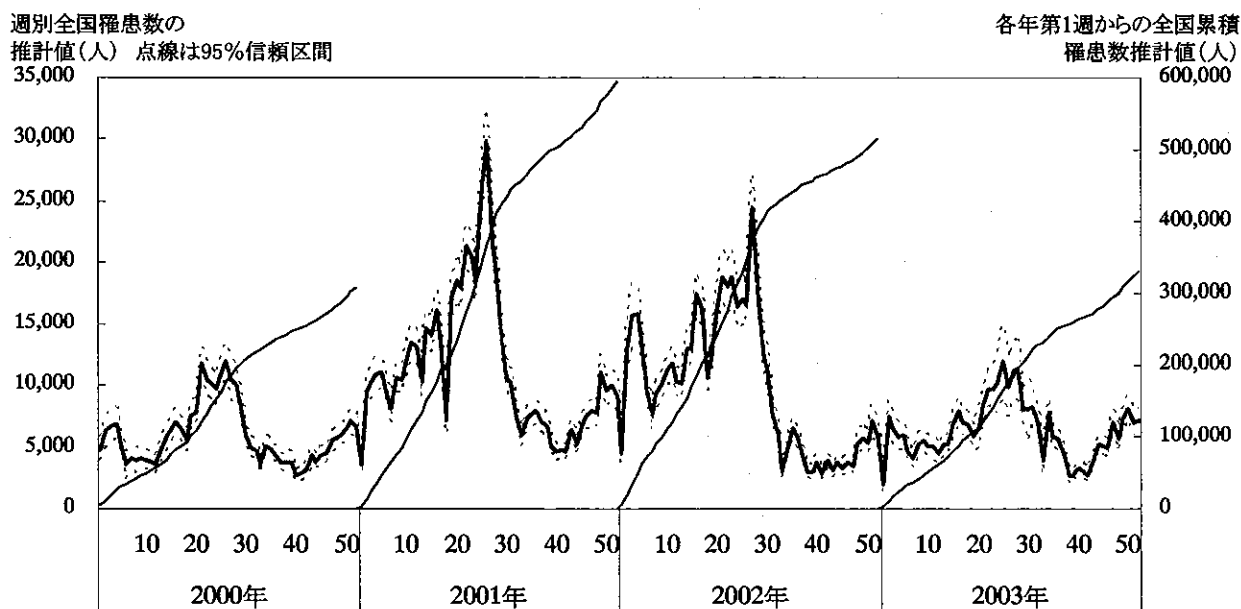


表Ⅲ-3-6 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（伝染性紅斑）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	30.9	28.6 - 33.1	59.4	56.3 - 62.5	51.4	48.2 - 54.6	33.0	30.2 - 35.9
男	15.2	14.1 - 16.3	29.1	27.6 - 30.7	25.4	23.7 - 27.0	16.4	15.0 - 17.8
女	15.7	14.4 - 16.9	30.3	28.7 - 31.9	26.1	24.4 - 27.7	16.6	15.1 - 18.1
0～4歳	12.4	11.5 - 13.3	21.6	20.4 - 22.7	19.3	18.1 - 20.5	13.3	12.2 - 14.3
5～9	15.5	14.2 - 16.7	31.7	29.9 - 33.5	27.0	25.2 - 28.8	16.4	14.9 - 18.0
10～14	1.9	1.7 - 2.1	4.0	3.7 - 4.3	3.4	3.1 - 3.8	2.2	1.9 - 2.5
15～	1.1	0.9 - 1.2	2.1	1.9 - 2.4	1.7	1.5 - 1.9	1.2	0.9 - 1.4

単位：万人

図Ⅲ-3-6 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（伝染性紅斑）

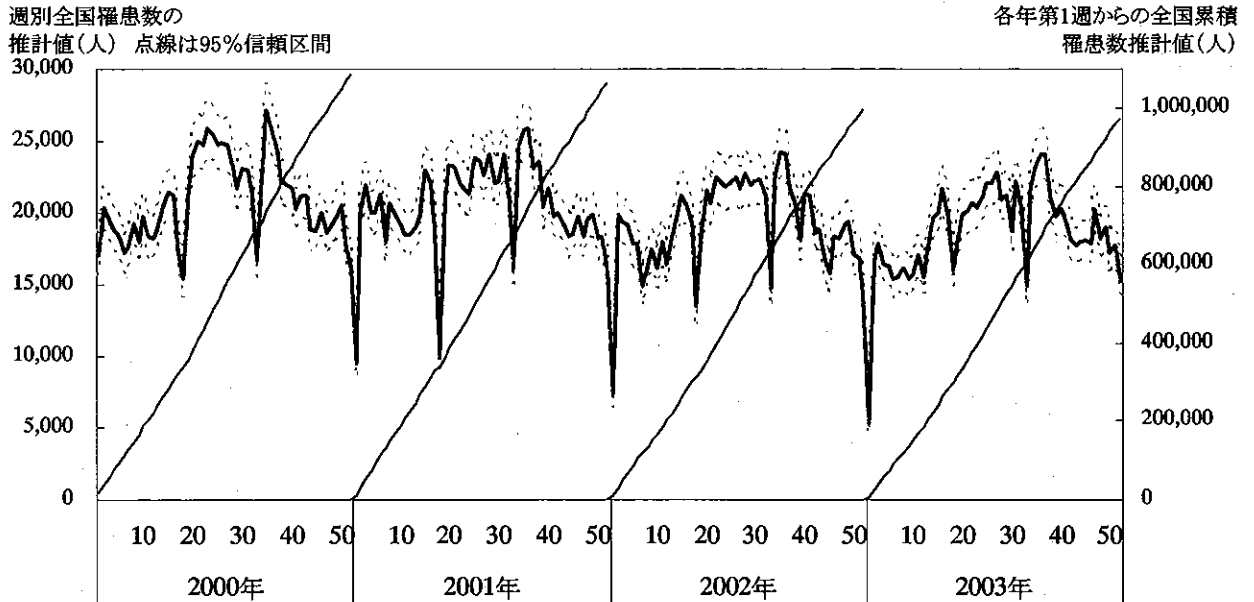


表Ⅲ-3-7 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（突発性発疹）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	108	103 - 114	106	101 - 111	100	95 - 104	97	93 - 102
男	56	53 - 59	54	52 - 57	51	48 - 53	50	48 - 53
女	52	50 - 55	52	50 - 55	49	46 - 51	47	45 - 49
0～4歳	108	103 - 113	106	101 - 111	99	94 - 104	97	92 - 102
5～9	0	0 - 0	0	0 - 0	0	0 - 0	0	0 - 0
10～14	0	0 - 0	0	0 - 0	0	0 - 0	0	0 - 0
15～	0	0 - 0	0	0 - 0	0	0 - 0	0	0 - 0

単位：万人

図Ⅲ-3-7 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（突発性発疹）

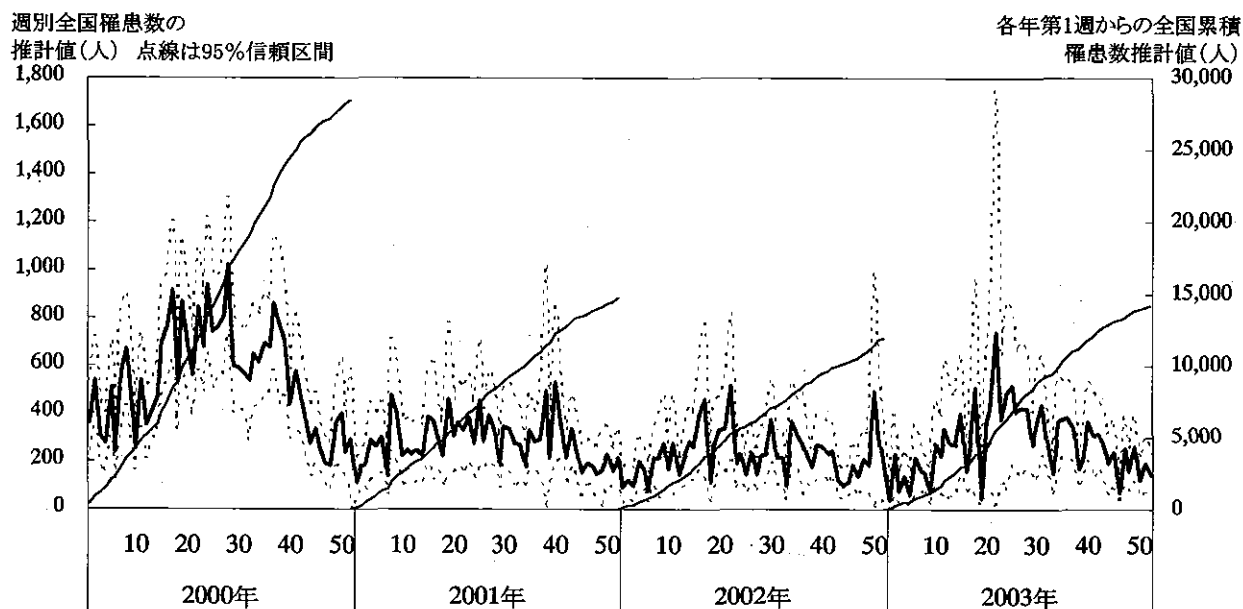


表Ⅲ-3-8 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（百日咳）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	2.8	2.6 - 3.1	1.5	1.3 - 1.7	1.2	1.0 - 1.4	1.4	0.9 - 1.9
男	1.4	1.2 - 1.5	0.7	0.6 - 0.8	0.6	0.5 - 0.7	0.7	0.5 - 0.9
女	1.5	1.3 - 1.6	0.8	0.7 - 0.9	0.6	0.5 - 0.7	0.7	0.4 - 1.0
0～4歳	2.3	2.1 - 2.6	1.2	1.0 - 1.4	0.9	0.7 - 1.0	1.0	0.7 - 1.2
5～9	0.3	0.3 - 0.4	0.2	0.1 - 0.2	0.2	0.1 - 0.2	0.2	0.1 - 0.2
10～14	0.1	0.1 - 0.1	0.0	0.0 - 0.1	0.1	0.0 - 0.1	0.1	0.0 - 0.1
15～	0.1	0.1 - 0.1	0.1	0.0 - 0.1	0.1	0.0 - 0.2	0.2	0.0 - 0.4

単位：万人

図Ⅲ-3-8 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（百日咳）

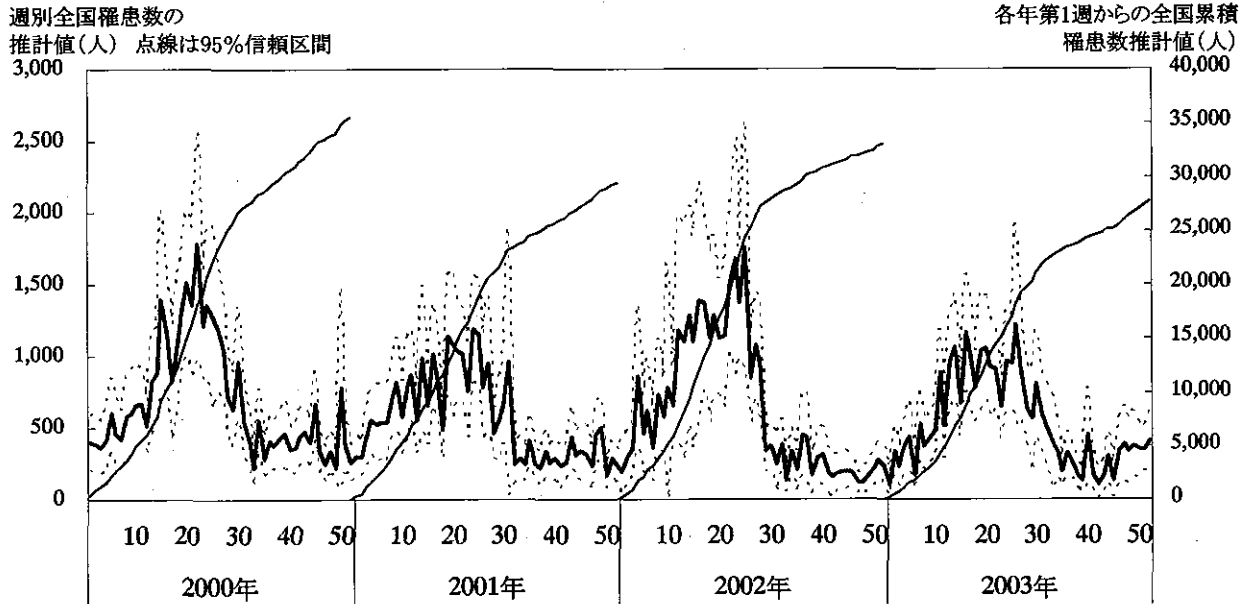


表Ⅲ-3-9 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（風疹）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	3.5	3.0 - 4.1	2.9	2.6 - 3.3	3.3	2.3 - 4.3	2.8	2.4 - 3.2
男	1.9	1.5 - 2.2	1.5	1.3 - 1.7	1.6	1.2 - 2.1	1.5	1.3 - 1.7
女	1.7	1.4 - 1.9	1.4	1.2 - 1.6	1.7	1.1 - 2.2	1.3	1.1 - 1.5
0～4歳	1.8	1.5 - 2.1	1.5	1.2 - 1.7	1.6	1.1 - 2.0	1.2	1.0 - 1.4
5～9	0.9	0.7 - 1.2	0.7	0.6 - 0.8	1.1	0.7 - 1.5	0.7	0.5 - 0.8
10～14	0.3	0.3 - 0.4	0.3	0.2 - 0.3	0.3	0.2 - 0.5	0.3	0.2 - 0.3
15～	0.5	0.4 - 0.6	0.5	0.4 - 0.6	0.3	0.3 - 0.4	0.6	0.5 - 0.7

単位：万人

図Ⅲ-3-9 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（風疹）

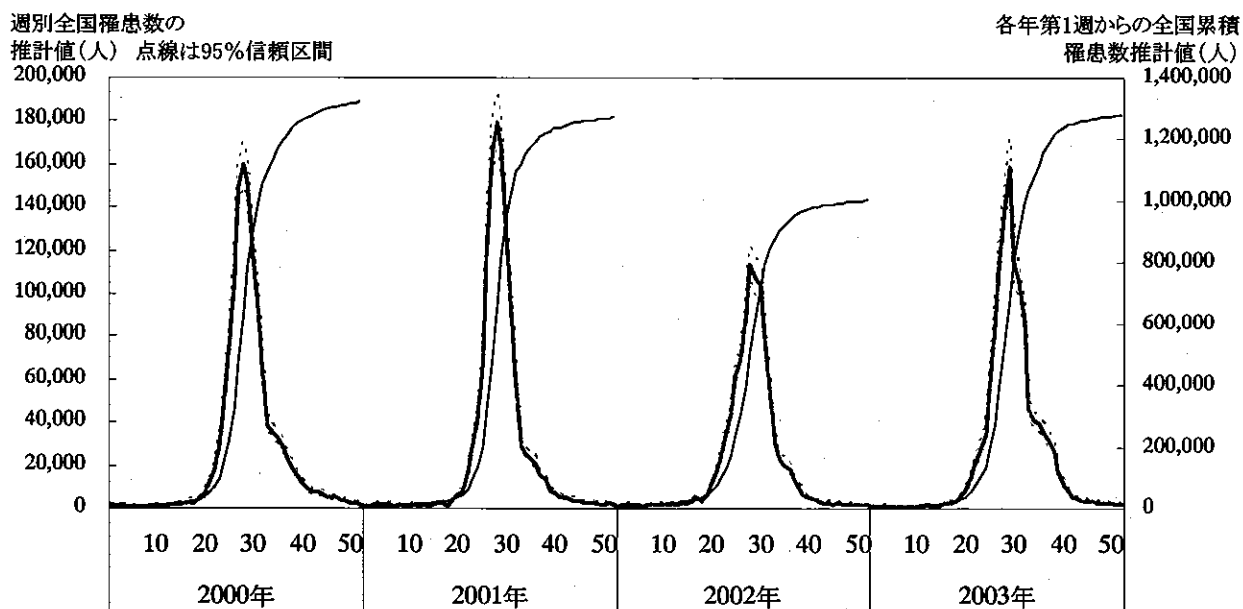


表Ⅲ-3-10 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（ヘルパンギーナ）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	132	124 - 140	127	120 - 135	100	94 - 106	128	121 - 135
男	69	65 - 73	66	62 - 70	52	49 - 55	67	63 - 71
女	63	59 - 67	61	57 - 65	48	45 - 51	61	57 - 64
0～4歳	102	96 - 108	97	92 - 103	80	75 - 85	101	96 - 107
5～9	25	23 - 27	26	24 - 27	17	16 - 18	24	22 - 26
10～14	2	2 - 2	2	2 - 2	1	1 - 2	2	1 - 2
15～	3	1 - 4	2	1 - 4	2	1 - 3	2	1 - 2

単位：万人

図Ⅲ-3-10 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（ヘルパンギーナ）

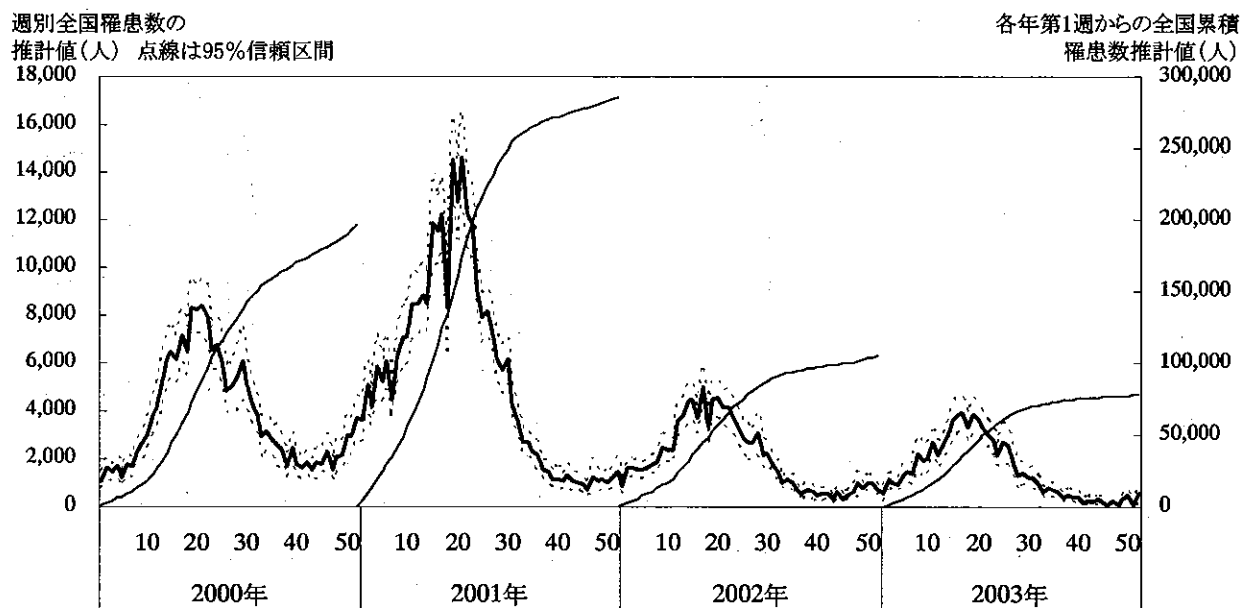


表Ⅲ-3-1 1 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（麻疹）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	19.7	18.1 - 21.3	28.6	26.3 - 30.8	10.5	9.6 - 11.4	7.8	7.0 - 8.6
男	10.7	9.8 - 11.6	15.3	14.1 - 16.5	5.6	5.1 - 6.1	4.2	3.7 - 4.6
女	8.9	8.2 - 9.7	13.3	12.2 - 14.3	4.9	4.4 - 5.3	3.6	3.2 - 4.0
0～4歳	12.0	11.0 - 13.0	16.8	15.4 - 18.3	5.8	5.2 - 6.4	4.0	3.6 - 4.5
5～9	4.2	3.8 - 4.7	6.3	5.7 - 6.8	2.3	2.1 - 2.5	1.7	1.4 - 2.0
10～14	2.1	1.8 - 2.3	3.3	3.0 - 3.7	1.5	1.3 - 1.7	1.2	1.0 - 1.4
15～	1.4	1.1 - 1.6	2.1	1.9 - 2.4	0.9	0.8 - 1.0	0.9	0.8 - 1.0

単位：万人

図Ⅲ-3-1 1 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（麻疹）

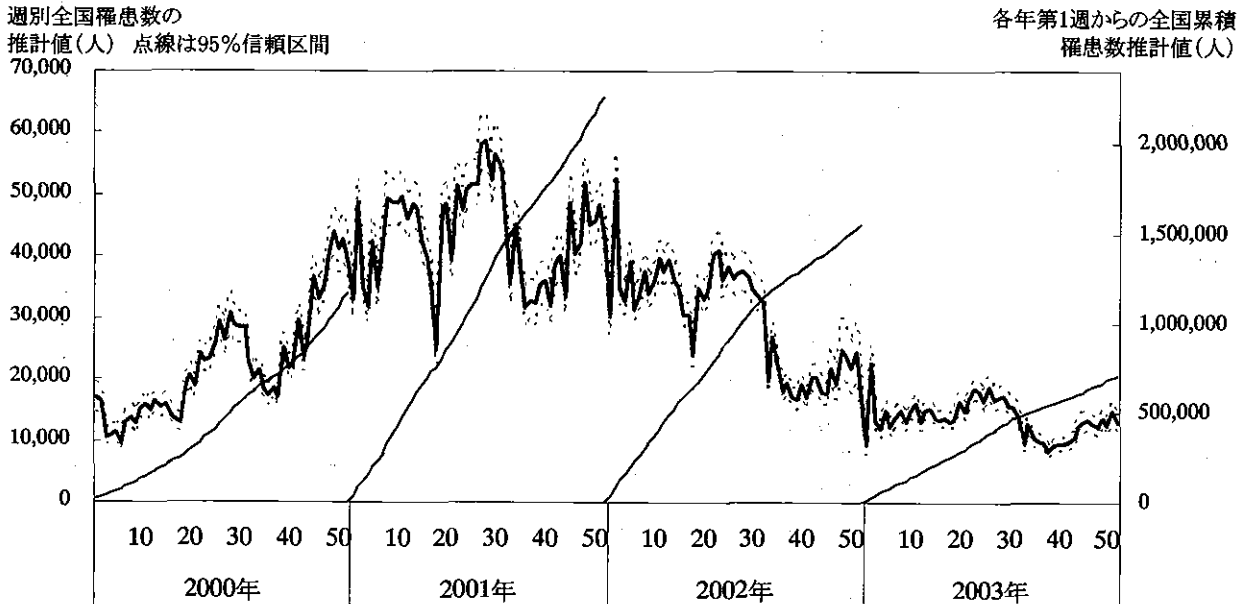


表Ⅲ-3-12 全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間（流行性耳下腺炎）

	2000年		2001年		2002年		2003年	
	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間	推計値	95%信頼区間
総数	117	111 - 124	226	215 - 236	155	147 - 163	71	67 - 75
男	63	59 - 67	121	115 - 127	82	78 - 87	38	36 - 41
女	54	51 - 58	105	100 - 110	73	69 - 77	33	31 - 35
0～4歳	52	49 - 55	103	97 - 108	69	66 - 73	31	29 - 33
5～9	55	52 - 58	103	98 - 107	71	67 - 75	33	31 - 35
10～14	6	6 - 7	12	12 - 13	9	9 - 10	4	4 - 5
15～	4	4 - 4	8	8 - 9	6	5 - 6	3	2 - 3

単位：万人

図Ⅲ-3-12 週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値（流行性耳下腺炎）



表Ⅲ-3-13 仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味（小児科定点対象疾患）

		仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数		比
		全医療施設の合計値	定点からの推定値	
咽頭結膜熱	2000年	16.8 万人	18.3 万人	1.09
	2001年	19.0	21.5	1.13
	2002年	12.3	13.6	1.11
	2003年	28.8	34.0	1.18
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2000年	117.5	138.0	1.17
	2001年	108.9	130.2	1.20
	2002年	112.2	134.9	1.20
	2003年	119.4	143.0	1.20
感染性胃腸炎	2000年	797.3	865.3	1.09
	2001年	803.0	865.5	1.08
	2002年	802.8	867.1	1.08
	2003年	798.8	861.1	1.08
水痘	2000年	208.1	237.0	1.14
	2001年	204.9	231.7	1.13
	2002年	200.3	227.5	1.14
	2003年	181.9	207.4	1.14
手足口病	2000年	163.7	184.8	1.13
	2001年	90.8	105.9	1.17
	2002年	72.7	80.3	1.10
	2003年	132.3	147.7	1.12
伝染性紅斑	2000年	28.4	30.9	1.09
	2001年	53.6	58.9	1.10
	2002年	44.7	51.2	1.15
	2003年	30.1	32.6	1.08
突発性発疹	2000年	96.8	108.5	1.12
	2001年	93.8	105.5	1.12
	2002年	88.8	99.2	1.12
	2003年	86.8	96.9	1.12
百日咳	2000年	2.3	2.9	1.26
	2001年	1.2	1.5	1.25
	2002年	0.9	1.2	1.33
	2003年	1.2	1.4	1.17
風疹	2000年	3.2	3.5	1.09
	2001年	2.8	2.9	1.04
	2002年	3.3	3.3	1.00
	2003年	2.4	2.8	1.14
ヘルパンギーナ	2000年	116.9	132.0	1.13
	2001年	113.2	126.4	1.12
	2002年	89.5	99.9	1.12
	2003年	114.6	127.4	1.11
麻疹	2000年	15.8	19.7	1.25
	2001年	22.0	28.2	1.28
	2002年	8.9	10.5	1.18
	2003年	6.5	7.8	1.20
流行性耳下腺炎	2000年	104.4	117.1	1.12
	2001年	200.7	223.9	1.12
	2002年	138.4	154.5	1.12
	2003年	62.3	70.5	1.13

Ⅲ-4. 全国年間罹患数・週別罹患数の推計:眼科定点対象疾患

眼科定点対象の2疾患について、全国年間罹患数の性別、年齢階級別の推計値、全国の週別罹患数推計値とその累積数、および、全国年間罹患数推計値の吟味結果を示す。

以下、各疾患ごとに結果の概要を示す。なお、全国年間罹患数（性別、年齢階級別を含む）を表Ⅲ-4-1～2、週別罹患数とその累積数を図Ⅲ-4-1～2、推計値の吟味結果を表Ⅲ-4-3に示した。

(1)急性出血性結膜炎

表Ⅲ-4-1に、急性出血性結膜炎について、全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が2.3万人(95%信頼区間:1.7～2.8万人)、2001年が1.6万人(同:1.2～2.1万人)、2002年が1.7万人(同:1.2～2.2万人)であった。2003年は1.8万人(同:1.0～2.2万人)であり、2001年・2002年とほぼ同程度であった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや小さいか同程度であった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値はいずれの年次においても0.1～0.5万人の範囲にあり、20～29歳、30～39歳が最も多かった。

図Ⅲ-4-1に、急性出血性結膜炎の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。各年ともに週別罹患数は年間を通してほぼ一定であり、累積罹患数のグラフの形状もほぼ直線に近くなっていた。

表Ⅲ-4-3に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計(真値)に対する定点からの推計値は0.92～1.12倍であった。

(2)流行性角結膜炎

表Ⅲ-4-2に、流行性角結膜炎について、全国年間罹患数の推計値と95%信頼区間を示す。全国年間罹患数の推計値は2000年が74.7万人(95%信頼区間:66.7～82.8万人)、2001年が73.7万人(同:62.5～84.9万人)、2002年が60.4万人(同:53.2～67.7万人)であった。2003年は55.5万人(同:50.0～60.9万人)であり、この4年間で最も少なかった。性別の全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次とも男が女よりやや大きかった。年齢階級別全国年間罹患数の推計値は、いずれの年次においても20～29歳と30～39歳が比較的多く、また、0～4歳や70歳以上もかなり大きかった。

図Ⅲ-4-2に、流行性角結膜炎の2000年～2003年の週別全国罹患数と各年第1週からの全国累積罹患数の推計値を示す。2000年、2001年では、第20週から第40週あたりに週別罹患数が増えているが、2002年ではそのような傾向は見られなかった。2003年では流行の山があるように見えるものの、全体として週別罹患数が少なかった。

表Ⅲ-4-3に、仮想的年間罹患数に基づく全国年間罹患数推計値の吟味を示す。仮想的年間罹患数の全医療施設合計(真値)に対して、定点からの推計値は1.28～1.38倍であった。

以上、眼科定点対象2疾患について2000年～2003年の罹患数推計値、95%信頼区間と吟味結果を示した。急性出血性結膜炎は2001年～2002年と同程度であり、流行性角結膜炎はこの4年間で最も少なかった。

推計値の吟味結果としては、仮想的年間罹患数に基づく真値に対する推計値の比は、急性出血性結膜炎ではインフルエンザや小児科定点対象疾患と比べても偏りの程度は同程度であると考えられた。

一方、流行性角結膜炎では 1.28 ～ 1.38 倍とインフルエンザや小児科定点対象疾患と比べると若干高めであった。眼科定点対象疾患の全国年間罹患数については、昨年度までの報告書で、インフルエンザや小児科定点対象疾患と比べて標準誤差率が大きく、推計値の精度の面ではより低いことが指摘されている。この問題点は 2003 年分の推計においても同じである。

したがって、眼科定点対象疾患では、全国年間罹患数を推計する場合には、推計値の解釈において、より慎重さが強く求められる。